



東日本大震災津波 岩手県立大学の復興支援

平成26年度実績



はじめに

平成23年3月11日の東日本大震災津波から、4年が過ぎました。岩手県立大学では、災害発生直後から被災地への支援を本学の使命として受け止め、教職員や学生の復興支援活動を継続して取り組んでいます。

本資料は、これら本学の主な復興支援活動の平成26年度の実績についてとりまとめたものです。

《資料の構成》

1 学生への支援

- (1) 被災学生への経済的支援
- (2) 平成27年度入試に向けた取組
- (5) 学生による支援
- (6) 地域との連携
- (7) 他大学との連携

2 地域社会への貢献

- (1) 各学部、各短期大学部の取組
- (2) 災害復興支援センターの取組
- (3) 地域政策研究センターの取組
- (4) いわての教育及びコミュニティ

形成復興支援事業

3 危機管理対応

- (1) 滝沢キャンパスの状況
- (2) 宮古キャンパスの状況

1 学生への支援

(1) 本学に在籍する被災学生への経済的支援

ア 入学料・授業料の減免

- ① 平成23年度～26年度入学生の入学料を減免
- ② 平成23年度前期～26年度後期の授業料を減免
- ③ 平成27年度入学生の授業料減免を決定
- ④ 平成27年度前・後期の授業料減免を決定

【減免の内容(平成26年度実績)】

費目	支援措置	支援対象	金額	免除認定者数
入学料	・原則として全額免除 ・詳細については相談内容を踏まえて決定 ・既に納付した後に被災した者に対しては還付	①住居の被災 (全・半壊、大規模半壊、全・半焼、流失) ②学資負担者の死亡または行方不明 ③福島原発事故による立退き等	学部・大学院 岩手県内225,600円 岩手県外338,400円 盛岡短大部・宮古短大部 岩手県内135,400円 岩手県外203,000円	※平成26年度入学生 [学部・大学院] 34名 (H23:34名、H24:34名、H25:36名) [盛岡短大部、宮古短大部] 10名 (H23:13名、H24:13名、H25:14名)
授業料	・原則として全額免除 ・詳細については相談内容を踏まえて決定		学部・大学院 前期・後期各267,900円 盛岡短大部・宮古短大部 前期・後期各195,000円	[学部・大学院] 187名 ※前期及び後期の延べ人数 [盛岡短大部、宮古短大部] 50名 ※前期及び後期の延べ人数

【減免額】

- ・平成26年度入学料 9,882千円 (H23:10,287千円、H24:10,175千円、H25:10,807千円)
- ・平成26年度授業料 52,711千円 (H23:65,535千円、H24:48,119千円、H25:53,709千円)

イ 岩手県立大学学業奨励金に「被災学生特別枠」を創設

既存の岩手県立大学学業奨励金に「被災学生特別枠」を創設し、アの「支援対象」欄のいずれかに該当する被害を受けた世帯の学生を対象に奨学金の交付を開始した。

【実績】

- ・平成26年度奨学生 10名 年間貸与額 3,240千円 (月額30,000円または50,000円)

(2) 平成27年度入試に向けた取組

① 県立大学オープンキャンパスへのバス運行を支援

7月6日（日）開催のオープンキャンパスへ、被災地の高校からのバス経費を大学が負担（10校15台分）。参加者数2,700人

② 震災特別推薦入試の実施

- ・ 県内高等学校からの要請等を踏まえ、平成24年度入試に創設した震災特別入試について平成27年度入学者選抜においては、「震災特別推薦入試」に名称を変更し、下記のとおり継続実施。

（参考 H24入試：39名受験、22名合格 H25入試：40名受験、22名合格

H26入試：29名受験、15名合格）

対 象：本人又は保護者が震災により被災した県内の高校生

実施学部：岩手県立大学 全学部、盛岡短期大学部、宮古短期大学部

期 日：平成26年11月23日（日）（宮古短期大学部 11月12日（水））

募集人員：各学部若干名

選抜結果：10名受験、8名合格



2 地域社会への貢献

岩手県立大学の復興支援体制

学部・短期大学部

p6 - 11

学部プロジェクト研究など学部特性や、教員の持つ専門性を活かした支援活動を展開

看護学部

社会福祉学部

ソフトウェア情報学部

総合政策学部

盛岡短期大学部

宮古短期大学部

災害復興支援センター（H23.4.5設置）

被災地域の復興を、教職員や学生のボランティア活動、教職員の派遣等を通じて支援することを目的に設置

- ・ボランティアを希望する学生に備えてボランティア事前研修実施、ボランティア保険加入手続（H23～）
- ・ボランティアバスの運行（H23：5回、H24：8回、H25：9回、H26：14回）、活動に必要な物資の提供や必要経費の配分（H23～）
- ・海外の大学との交流活動実施（H23～）

p12-14

地域政策研究センター（H23.4.1設置）

地域との連携を強化し、県民のシンクタンクとしての役割を発揮することを目的に設置

- ・「震災復興研究部門」を設置し、「暮らし」、「産業経済」、「社会・生活基盤」の3分野において15課題の研究を推進（H23～24）
- ・「地域協働研究」として、①教員提案型、②地域提案型（共同研究実施）の2分野において地域課題等を解決するための研究を推進（H24～）

p15-19

連携

学生

学生の活動についてはp23-28

(1) 各学部、各短期大学部の取組

看護学部

①「難病患者の震災後の日常生活状況と防災への意識調査」

時期：平成25年9月～26年5月

場所：岩手県内に在住している特定疾患医療受給者

概要：特定疾患(いわゆる難病)で在宅において療養されている方を対象として、震災後の体調の変化や防災意識などについて調査し、得られた結果については難病患者や家族に対する自助を促すための具体的な対応策の検討に活用されている。また、防災意識が低下してきている傾向も確認されており防災意識の継続教育が今後の課題である。

②「看護職・介護職などの高齢者ケア従事者を対象とした研修会」

時期：平成26年7月

場所：釜石市民交流センター

概要：『認知症ケアの基本から実践まで』のテーマで講演会を開催するとともに、『暴言が見られる利用者の安心できる環境を整えるために』のテーマで事例検討会を行なった。自らも被災者でありながら、立ち止まることなく高齢者ケアを実践している方々の交流の場の必要性を実感した。また、高齢者ケアの現場における街と人、サービスを含めたコミュニティの復興支援方策について検討中である。

③「被災地の母子・女性支援に関する看護特別演習」

時期：平成26年4月

場所：岩手県大槌町

概要：震災後の岩手県における母子や女性支援の実情と課題を学ぶ機会を得るために、助産師を目指す本学学生が、大槌町で開催されている母子サロンでの助産師の業務内容を見学実習した。学生が実際に被災地に赴き、実践的・体験的な学習をとおして今後の助産師の臨床実践活動の一助になることを目的に実施した。

(1) 各学部、各短期大学部の取組

社会福祉学部

①「災害派遣福祉チーム設立支援」

時期：通年

場所：岩手県内全域

概要：岩手県災害派遣福祉チームの制度を平成25年度に設立したが、チーム員の登録研修、スキルアップ研修の内容を検討・実施を行い、実際に派遣できるレベルに達することを目指す支援を行った。また、圏域ごとに在住する登録チーム員同士の顔合わせや情報交換等をセミナー開催時などに設定するなど、チーム員のレベルアップを行った。さらに、次年度の研修で行うべき内容も確認した。

②「日本大震災被災地地域住民のこころの健康に関する研究：釜石市民の精神的健康の実態把握とその支援」

時期：通年

場所：岩手県釜石市

概要：東日本大震災が人々のメンタルヘルスに及ぼした影響を、岩手県釜石市に居住する市民を対象に、近親者との死別による悲嘆、抑うつ、行動の変化といった観点から明らかにする健康調査を行い、適切な支援について提案するための調査研究である。平成24年度からの継続的な変化をも検証している。

③「子ども・子育て支援活動に関する市民協働への支援」

時期：通年

場所：岩手県大船渡市

概要：大船渡地区の子ども・子育て支援に関する提言作成に向けて岩手県立大学地域協働研究（2013年度後期）として支援活動を開始。市内の子育て支援者や子育て当事者、市議等々で任意団体「おおふなと・キッズ・ワーキング」を設立。2014年5月～7月に子育て中の母親や高校生を含む市民協働によるワークショップを計7回開催し、その結果を子育てしやすいまちづくり実現に向けて5項目の提言書にまとめて2014年9月に大船渡市長に提出（提言書は全国で第9回マニフェスト大賞 優秀復興支援・防災対策賞を受賞）。研究期間終了後も支援を継続実施。その結果、2015年3月に策定された市の事業計画に「子育て支援ネットワーク会議」の設置などが具体的に盛り込まれた。

(1) 各学部、各短期大学部の取組

ソフトウェア情報学部

①「仮設住宅や復興住宅における仮設商店の社会実装」

時期：平成26年度

場所：宮古市の仮設住宅や釜石市の復興住宅

概要：実験商店システムを宮古市の仮設住宅や釜石市の復興住宅に置き、被災地の人々への持続的な生活支援を行うための実践的な研究を実施した。ここでの経験が、今後おきる災害時に、避難所、仮設住宅復興住宅等におけるコミュニティへ支援につながると考える。今年度は釜石市内の復興住宅に出店するとともに、盛岡市内の組織内商店を始めた。

②「仮設住宅団地支援員のICTスキル学習の支援」

時期：平成26年度

場所：大船渡市仮設住宅集会所

概要：仮設住宅で暮らす人たちが健康で前向きな生活を送ることができるための環境づくりをサポートする大船渡市仮設住宅運営支援事業において、支援員が円滑で効果的な業務を行うことができるよう、e-learningも活用したICTスキルの研修システムの設計・開発・運用を行った。継続的に主体的な学びを支援するシステムの評価結果からは、学習内容の定着・自己効力感の向上・学習内容の業務での活用が明らかになった。

③「さんりく沿岸の3D復興計画モデル構築とCIMへの適用」

時期：平成26年度

場所：宮古市田老地区ニュータウン

概要：被災地自治体では、住民説明会やホームページ等で復興計画を説明する際に、従来方法では2次元図面（図1）を配布して説明を行っている。この方法では、視覚的にわかりづらい。特に高さ情報や相対的關係が平面図では伝わりづらく、景観検討においても共通のイメージを持つことは難しい。我々は、大槌町、陸前高田市、宮古市の都市計画データを用いて、復興計画の3次元CADによる3D復興計画モデルを作成し、実際に復興計画の策定や住民説明会などに活用することで、その有効性の啓蒙やその評価を行っている。

(1) 各学部、各短期大学部の取組

総合政策学部

①「シンポジウム『三陸沿岸災害復興の総合政策学』の開催」

時期：平成27年2月22日（日）

場所：アイーナ804会議室(盛岡市)

概要：代表：高嶋裕一教授。文科省科研費助成事業基盤研究(B)の一環として、シンポジウムを開催した。その内容は、研究成果発表3件（第1部）、および、パネルディスカッション（第2部）である。研究成果発表では、社会学、民法、植生学の立場から復興過程に係る現状と課題が報告された。パネルディスカッションでは、政策分析論と農業経営学の教員に加え、復興行政に携わる大船渡市副市長をパネラーに迎え、復興のゴールのイメージや、復興のゴールに向けて何をすべきかについて議論した。

②「防災・復興研究プロジェクト」

時期：通年

場所：沿岸被災地を含む岩手県内各地域

概要：代表：伊藤英之教授。当学部プロジェクト研究は12課題からなる。研究課題名の例を挙げれば、1) スマートコミュニティによる産業発展と中小企業の参画、2) ジオパークのマーケティング戦略、3) 津波による衰退海岸林の回復、4) グループ補助金の復興に及ぼした効果 5) 地域コミュニティの復興研究、被災地の経済・財政の刷新的役割に関する研究、6) 衰退海岸林の回復に関する研究 などである。

③「企画展『水葵物語』の開催」

時期：平成26年6月14日～8月31日

場所：岩手県釜石市郷土資料館

概要：代表：平塚明教授。釜石市の環境保護団体「あさがおネットワーク」および盛岡市のNPO団体「AEA」と協働で取り組んでいる「ミズアオイの復活と保全活動」において、植物学の研究成果に基づく助言・指導および環境教育への展開を通して地域活動を牽引した。この取り組みは、環境省主催の東北地方ESDプログラムチャレンジプロジェクト2014において奨励賞を受賞した。なお、絶滅危惧種であるミズアオイは、津波で表土が削剥されたことに伴い埋土種子が発芽（復活）したものである。

(1) 各学部、各短期大学部の取組

盛岡短期大学部

①「災害復興住宅におけるコミュニティ形成の調査」

時期：平成26年度

場所：岩手県大槌町

概要：デザイン、世帯数の異なる大ヶロー丁目町営住宅と源水町営住宅で入居者のコミュニティ形成の仕方を調査し、共用スペースの役割が大きいことが確認された。（卒業研究）

②「非常食についての実態調査と備蓄食の提案」

時期：平成26年度

場所：岩手県滝沢市

概要：災害時における備蓄食品を利用した非常時の献立に関する研究を実施し、栄養価、価格、食味などを検討した。（卒業研究）

③「東日本大震災における在住外国人支援の実態調査」

時期：平成26年度

場所：愛知県ほか

概要：災害時における岩手県内在住外国人支援の組織体制を構築するため、愛知県国際交流協会等で聞き取り調査を実施し、多文化共生ソーシャルワーカーや外国籍県民キーパーソンの養成や配置等の必要性について検討した。

(1) 各学部、各短期大学部の取組

宮古短期大学部

①「三陸鉄道・ゼミ列車」

時期：平成26年9月18日

場所：三陸鉄道北リアス線宮古駅－田野畑駅

概要：宮井教授、岩田教授、大志田准教授の3ゼミ生約30名が出席。列車内での講義に加え、ホテル羅賀荘、宮古市田老地区も巡り、現地の人々の声を聞くとともに津波の映像を視聴した。

②「地域総合講座」

時期：平成26年4月～7月

場所：宮古短期大学部

概要：地域のさまざまな分野で活躍している方々を講師に迎え、地域振興・震災復興等に関する講義を学生へ実施した。主な内容は以下のとおり（カッコ内は招聘講師）。

- ① 「宮古市復興のまちづくり」（宮古市長）
- ② 「宮古観光の復興と学ぶ防災」（宮古観光文化交流協会事務局長） 等12回、延14時限

③「学生ボランティア活動支援」

時期：通年（主に週末）

場所：宮古市内

概要：宮古短期大学部JRCサークルが宮古市社会福祉協議会等と連携し、宮古市「街なか復興市」など復興関係の地域イベントの運営補助、宮古駅前の花植、高齢者宅の引越し補助等の支援活動を顧問の教員を中心にバックアップした。

(2) 災害復興支援センターの取組 (ボランティア活動等への支援)

①組織体制

災害復興支援センター
(H23.4設置)

センター長

副センター長

復興支援員

連携・協働

教育復興支援員

看護学部、社会福祉学部、
ソフトウェア情報学部、総合政策学部、
盛岡短期大学部、宮古短期大学部

連携

岩手県立大学 学生ボランティアセンター

②活動状況

H26年度実績(3月末現在)

必要な物資の調達・貸与

腕章、ビブス、ヘルメットなどの貸出し

活動計画受付及び経費の支援

・7事業(11件)

ボランティア活動保険への加入手続き

・ボランティア活動保険への加入
311人

ボランティアバスの運行、
オハイオ大学との交流活動実施

・ボランティアバス14回運行、参加者245名(教職員33名含む)
・オハイオ大学との交流活動実施、本学参加者37名(教職員15名含む)
※詳細は次ページ

寄付金の受入、活用

平成26年度受入 2件

活動事例① ボランティアバスの運行

1 運行日

①4月20日/②4月27日/③5月18日/④5月31日/⑤6月8日⑥6月21日/⑦7月13日/⑧8月3日/
⑨9月7日/⑩10月18日/⑪11月8日/⑫11月29日/⑬12月27日/⑭3月22日

2 ボランティアの活動場所

①～⑪、⑬、⑭ オートキャンプ場モビリア（陸前高田市内）
⑫ 大槌川河川敷広場（大槌町内）

3 ボランティア活動の内容及び参加者

① ペットボトル飲料の配付	（参加者	学生8名、教職員等9名）
② ペットボトル飲料の配付	（参加者	学生11名、教職員等10名）
③ ペットボトル飲料の配付	（参加者	学生17名、教職員等8名）
④ ペットボトル飲料の配付	（参加者	学生17名、教職員等3名）
⑤ ペットボトル飲料の配付	（参加者	学生6名、教職員等10名）
⑥ ペットボトル飲料の配付	（参加者	学生15名、教職員等5名）
⑦ ペットボトル飲料の荷降し、運搬、配付	（参加者	学生10名、教職員等13名）
⑧ ペットボトル飲料の荷降し、運搬、配付	（参加者	学生1名、教職員等9名）
⑨ ペットボトル飲料の荷降し、運搬、配付	（参加者	学生5名、教職員等12名）
⑩ ペットボトル飲料の荷降し、運搬、配付	（参加者	学生3名、教職員等3名）
⑪ ペットボトル飲料の荷降し、運搬、配付	（参加者	学生8名、教職員等15名）
⑫ おおつち鮭まつり会場河川清掃	（参加者	学生12名、教職員等3名）
⑬ ペットボトル飲料の荷降し、運搬、配付	（参加者	学生3名、教職員等15名）
⑭ ペットボトル飲料の荷降し、運搬、配付	（参加者	学生4名、教職員等10名）

合計245名

活動事例② 海外の大学等との連携

～オハイオ大学・本庄国際奨学財団と岩手県立大学の学生たちが共に活動～

オハイオ大学（H23年度～）、本庄国際奨学財団（H25年度～）及び本学が連携を図り、東日本大震災に係る被災地の復興支援ボランティア活動を継続して実施している。平成26年度は大槌町を主たる活動場所とし、大槌高校の生徒も参加して活動が行われた。

1 日程・活動場所

平成26年9月26日(金)～28日(日) 大槌町、陸前高田市ほか

2 参加者

- (1) 本学 37名（うち、学生22名）
- (2) オハイオ大学 14名（うち、学生11名）
- (3) 本庄国際奨学財団 27名（うち、学生24名）
- (4) 大槌高校 9名（うち、学生8名） ※9/27のみ参加

3 活動内容

- ・ 河川敷環境整備事業（大槌町 チューリップ球根植付作業：菜の花プロジェクトの一環で実施）
- ・ 語り部による津波被災体験講話（大槌町 大念寺副住職による講話の聴講）
- ・ 復興支援ワークショップ（山田町）
- ・ お茶セミナー、郷土芸能を通じた交流活動（大槌町）
- ・ 水ボラ活動 ペットボトルのお茶を仮設住宅へ各戸配付（大槌町・陸前高田市）など



(3) 地域政策研究センターの取組

①地域政策研究センターの設置と概要

- ◇ 地域との連携を強化し、県民のシンクタンクとしての役割を発揮することを目的に、平成23年4月に設置。
- ◇ 平成24年度からは、「地域協働研究」として、学内教員と地域団体等(県・市町村等の公共団体、地域団体、NPO等)との協働により、地域課題等を解決するための研究を実施。特に震災復興研究は重点課題として位置づけて推進している。

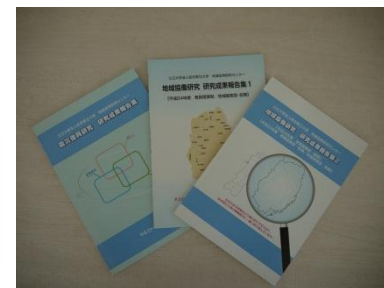
教員提案型【学内教員が地域団体等を行う共同研究を対象、地域ニーズに対応した研究を推進】
震災復興関係の研究：平成25年度後期5課題を継続して実施、平成26年度前期9課題を新規採択した。

地域提案型【地域団体等を対象に地域課題を公募、学内教員とのマッチングを経て研究を推進】
震災復興関係の研究：平成25年度後期3課題を継続して実施、平成26年度前期3課題を新規採択した。

- ◇ 平成26年度より研究成果を地域社会に還元させることで復興に寄与することを目的とした「東日本大震災津波からの復興加速化プロジェクト研究」をスタートした。平成26～27年の2カ年度にわたり、2つのプロジェクトを実施する。

- ◇ 平成25年度に発行済みの2冊の報告集に加え、平成25年度末で完了した「地域協働研究(教員提案型/地域提案型)」について、「研究成果報告集2」をあらたに発行した。

- ①「震災復興研究 研究成果報告集」
- ②「地域協働研究 研究成果報告集1【平成24年度 教員提案型/地域提案型・前期】」
- ③「地域協働研究 研究成果報告集2
【平成24年度 地域提案型・後期】【平成25年度 教員提案型・前期/地域提案型・前期】」



(3) 地域政策研究センターの取組

② 地域協働研究

平成25年度 教員提案型【後期】

(期間：H25.10～H26.9)

課題名

代表者名（学部）

- | | |
|--|-------------------|
| ○「太陽光発電のみを用いた持続的な被災地観測システムの開発」 | ソフトウェア情報 准教授 齋藤義仰 |
| ○「防災まちづくりに向けた東日本大震災の検証と経験の活用」 | 総合政策 教授 倉原宗孝 |
| ○「岩手県沿岸地域におけるスマートコミュニティ構築による地域の産業活性化と雇用創出に関する調査研究事業」 | 総合政策 講師 近藤信一 |
| ○「被災地において家族等の介護をしている介護者の生活の現状と介護支援に関する研究」 | 社会福祉 教授 狩野徹 |
| ○「地域の主体的な見守り活動構築
ー宮古市西地区における仮設住宅を含む住民支援ー」 | 社会福祉 教授 小川晃子 |

平成25年度 地域提案型【後期】

(期間：H25.10～H26.9)

課題名

提案者

代表者名（学部）

- | | | |
|--|-------------------------|---------------|
| ○「災害時における観光客の安全避難についてのガイドラインに関する研究」 | 有限会社宝来館 | 総合政策 准教授 伊藤英之 |
| ○「メンタルヘルスの観点から見た宮古・下閉伊地域金型産業における人事組織の課題」 | 宮古・下閉伊コネクター
金型研究会 | 社会福祉 教授 青木慎一郎 |
| ○「地域で創る子ども・子育てヴィジョンの構築に関する研究」 | 非営利株式会社三陸復興
新まちづくり会社 | 社会福祉 講師 櫻幸恵 |

(3) 地域政策研究センターの取組

② 地域協働研究

平成26年度 教員提案型【前期】

(期間：H26.5～H27.3)

課題名

代表者名(学部)

- 「東日本大震災被災地地域住民のこころの健康に関する研究
―釜石市健康調査の分析による被災後の市民の精神的健康の実態把握―」 社会福祉 准教授 中谷 敬明
- 「岩手県被災沿岸地域の水産業復興に向けた持続可能な協業化の成立要件に関する検討」 総合政策 講師 近藤 信一
- 「山田町における被災信仰石造物の現況調査とその可視化および成果活用に関する基礎的研究」 盛岡短大 教授 松本 博明
- 「大船渡市越喜来泊地区における衰退海岸林の回復」 総合政策 准教授 島田 直明
- 「岩手県における難病患者の防災に対する意識向上の方法の検討」 看護 助手 藤村 史穂子
- 「みちのく潮風トレイルの利用促進に関する研究」 総合政策 教授 渋谷 晃太郎
- 「被災地におけるIT支援のニーズ・シーズマッチング調査およびIT支援マッチングシステムのプロトタイプ開発」 ソフトウェア情報 講師 瀬川 典久
- 「三陸ジオパーク活性化マーケティング戦略に関する研究」 総合政策 教授 伊藤 英之
- 「情報倉庫と情報タイムカプセルを取り入れた津波資料館の社会実装に関する研究」 ソフトウェア情報 教授 村山 優子

(3) 地域政策研究センターの取組

② 地域協働研究

平成26年度 地域提案型【前期】 (期間：H26.6～H27.3)

課題名	提案者	代表者名(学部)
○「震災派遣福祉チーム設置および活動に関する研究」	岩手県	社会福祉 教授 狩野 徹
○「岩手県立図書館震災関連資料のデジタル化とその利活用システムに関する基礎研究」	岩手県立図書館	ソフトウェア情報 教授 阿部 昭博
○「地域資源を活用した健康増進計画立案に関する研究」	大船渡市	看護 教授 上林 美保子

平成26年度 教員提案型【後期】 (期間：H26.10～H27.9)

課題名	提案者	代表者名(学部)
○「震災後の釜石市における町内会の変容と課題」		総合政策 教授 吉野英岐
○「看護職や看護学生によるレジリエンスを活用した被災者の長期的健康支援の活動モデルの開発」		看護 准教授 井上都之

平成26年度 地域提案型【後期】 (期間：H26.10～H27.9)

課題名	提案者	代表者名(学部)
○「地産品へのジオストーリー付加による新たなジオパークプロモーション手法の開発」	三陸ジオパーク推進協議会	総合政策 教授 伊藤英之
○「産地魚市場と消費地市場を結ぶ水産市場物流の再構築に関するフィージビリティスタディー」	岩手県沿岸広域振興局	総合政策 准教授 新田義修

(3) 地域政策研究センターの取組

③ 東日本大震災津波からの復興加速化プロジェクト研究

(期間：H26.6～H28.3)

小川プロジェクト

課題名：釜石地区におけるICTを活用した孤立防止と生活支援型
コミュニティづくり -岩手県全域での展開を目指して-
研究代表者：社会福祉学部 教授 小川 晃子

<共同研究者>

社会福祉学部/教授 狩野徹、社会福祉学部/教授 宮城好郎、社会福祉学部/非常勤
講師 細田重憲、盛岡赤十字病院健診部/部長 鎌田弘之、盛岡市立病院神経内科/
科長 佐々木一裕、日本遠隔医療学会/理事 長谷川高志、看護学部/講師 千田睦美、
ソフトウェア情報学部/教授 澤本潤、関東学院大学/教授 中野幸夫

<参画機関>

岩手県、市町村(釜石市、大槌町等)、岩手県社会福祉協議会、(株)NTTドコモ、
(株)シャープ



新田プロジェクト

課題名：岩手県沿岸地域における水産加工流通業の競争力強化と雇用の拡大
研究代表者：総合政策学部 准教授 新田 義修

<共同研究者>

宮古短期大学部/教授 植田眞弘、宮古短期大学部/准教授 松本力也、宮古短期大学部/
教授 宮沢俊郎、水産総合研究センター/漁村振興グループ長 宮田勉、宮古市産業振興
部/部長 佐藤日出海、盛岡市役所地域福祉課/主査 佐藤俊治

<参画機関>

宮古市、漁業協同組合、水産加工業者等協同組合、水産加工業者等



(4) いわての教育及びコミュニティ形成復興支援事業

①学生ボランティアによる小中高校向け学習支援・居住支援

文部科学省大学改革推進等補助金(大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業)による支援

- ・県立大学は、国の補助による「いわての教育及びコミュニティ形成復興支援事業」を活用して、「一般社団法人子どものエンパワメントいわて」による、心のケアと同時に進学への意欲や進路決定、夢の実現へ向かうことを目的とした、被災地の子どもたちの居場所づくり、大学生による傾聴が可能な自学自習方式の学習支援等の活動の支援を行っている。
- ・平成26年度も昨年度に引き続き、これまでの取組みを継続しつつ、地域のニーズを捉えて実施している。
活動状況は、5市町において、利用生徒数は延べ9,502名にのぼり、派遣した支援相談員数は延べ3,213名(うち岩手県立大学の学生ボランティア延べ43名)となっている。

陸前高田市

第一中、横田中、米崎小、広田小

【活動期間】平成23年11月～実施中 【対象】中高生
【活動形態】週2～6回(平日19時～21時、日曜日9時～15時 or 9時～17時)
・学習支援相談員9名が交替で常駐
・毎週日曜日には岩手県立大の学生ボランティアによるサポートを継続

宮古市

グリーンピア三陸みやこ仮設住宅、崎山自治会館、佐原地区センター、駒形通公民館

【活動期間】平成24年2月～実施中 【対象】小中高生
【活動形態】週1～3回(平日16時～19時 or 16時～20時、日曜日9時～15時 or 10時～15時)
・学習支援相談員9名が交替で常駐
・岩手県立大学の学生ボランティアによるサポートを継続

釜石市

唐丹中、東中、小佐野公民館

【活動期間】平成25年1月～実施中 【対象】小・中学生
【活動形態】週2～3回(平日15時～17時 or 16時～17時)
・学習支援相談員4名が交替で常駐

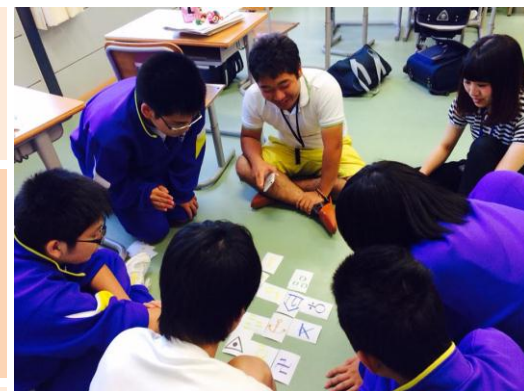
大船渡市

大立仮設住宅、越喜来地区(杉下・甫嶺、仲崎浜仮設住宅)、大田仮設住宅

【活動期間】平成24年7月～実施中 【対象】小中高生
【活動形態】週1～3回(平日19時～21時 or 18時～20時、日曜日9時～15時)
・学習支援相談員7名が交替で常駐
・毎週日曜日には岩手県立大の学生ボランティアによるサポートを継続

住田町 世田米中

【活動期間】平成25年4月～実施中 【対象】中学生
【活動形態】週3回(平日19時～21時、日曜日9時～15時)
・学習支援相談員4名が交替で常駐



(4) いわたの教育及びコミュニティ形成復興支援事業

②学生ボランティアを中心とした地域コミュニティ復興支援

文部科学省大学改革推進等補助金(大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業)による支援

- ・震災直後、岩手県内では若いボランティアが不足。一方、学生たちは、移動手段や宿泊場所・食事の確保の難しさから活動に参加できずにいた。こうした中で、本学の学生ボランティアセンターが立ち上がり、NPO法人等の協力を得て「いわてGINGA-NETプロジェクト」を結成。これにより、これまでにない規模で、全国の学生ボランティアによる被災地支援活動が展開された。
- ・県立大学では平成23年度から国の補助をうけ、「いわての教育及びコミュニティ形成復興支援事業」を実施。このような学生ボランティアによる被災地でのコミュニティ支援や学習支援、学生ボランティアの育成等を支援している。
- ・なお、「いわてGINGA-NETプロジェクト」の成果を引き継ぎ、平成24年2月に本学の学生有志を中心に「特定非営利活動法人いわてGINGA-NET」が発足し、被災地のコミュニティ支援活動に主体的に取り組んでいる。
県立大学は上記補助事業により、引き続き同法人の活動を支援している。
- ・同法人は、学生の夏季休業期間や週末を活用し、応急仮設住宅でのサロン活動、学校・公民館での子どもの学習支援、漁業支援、地域イベント支援等、被災地の多様化したニーズに対応して活動している。



〔夏銀河〕H26.8.13～9.22の間の6週間

活動地域：宮古市、釜石市、大船渡市、大槌町、住田町

参加学生：89名（17大学）

〔冬銀河〕H26.12.25～12.30の間の5日間

活動地域：釜石市、大船渡市、陸前高田市、大槌町、住田町

参加学生：9名（3大学）

〔春銀河〕H27.2.19～3.3の間の2週間

活動地域：釜石市、大船渡市、陸前高田市、大槌町、住田町

参加学生：40名（15大学）

〔週末ボランティア〕H26.5.4～5.5（1回）

活動地域：大槌町

参加学生：30名（2大学）

(4) いわたの教育及びコミュニティ形成復興支援事業

③学生ボランティアを対象とした地域コミュニティ支援力養成 文部科学省大学 改革推進等補助金(大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業)による支援

・「いわたの教育及びコミュニティ形成復興支援事業」として、学生を対象とした「コミュニティ支援力養成研修」を実施。
災害復興支援をテーマとした研修会を開催し、被災地域の支援だけでなく、それぞれの地元地域の防災、減災への意識を高め、将来起きうる大規模災害のプロフェッショナルを養成を目的に開催。

・コミュニティ支援力養成研修会開催状況

回	日時	場所	参加者	主な内容(テーマなど)
6回	平成26年10月12日(日) ～13日(月)	宇都宮大学ほか	全国の11の大学 等の学生55名	「首都直下地震発生時の隣接地域における支援体制の構築」 ・首都直下地震を想定した支援活動立ち上げシミュレーション ・東日本大震災時の活動報告 など
7回	平成27年3月8日(日)～ 9日(月)	広島修道大学、安 北区総合福祉セン ター	全国の14の大学 等の学生33名	「災害ボランティアセンター運営支援を考える～ 広島土砂災害の現場に学ぶ～」 ・広島土砂災害現場フィールドワーク ・災害VC運営支援と学生の役割など



(5) 学生による支援

① 学生ボランティアセンター

《支援に取り組む学生団体が集合 LINK Toposで活発に交流》

学生による「地域に向き合う」きっかけとするイベント「LINK Topos」が、学生ボランティアセンター等の参加により初めて企画・実施した。

4月24日、25日に開催された第1部では、新入生に向けて本学で活動するボランティア団体等がそれぞれの活動を紹介し、活動に関心を持ってもらうきっかけとした。また、4月29日に開催された第2部では、教職員も交えて、ワークショップにより地域と大学との関わりについて議論を深めた。

《内陸避難者の方を大学に招いた大学見学ツアー》

震災の影響で滝沢市内に避難している避難者の方を大学に招き、学内を案内した交流会「県大っ娘さ会いさこお〜！」を、6月16日に滝沢市社協と学生ボランティアセンターのメンバーが初めて企画・実施した。学生食堂での昼食や学内の散策を通じながら、震災当時のお話を伺うとともに、交流を深めた。

《山田町民と滝沢市民との交流事業》

6月23日、滝沢川前自治会住民と山田町の仮設住宅に行き、チューリップの球根の配布、お茶っこサロン活動を実施。地域の方に豚汁を振舞っていただき地域住民との交流を展開。11月24日は、「チャグチャグ馬コ」の人形制作による交流を実施。

《いわてGINGA-NET プロジェクトに協力》

次のとおりセンターのスタッフがキャストとして参加。全国から参加した大学生とともに、被災地での支援活動を展開した。いわてGINGA-NETプロジェクトの発足以降継続的に協力し、運営を行っている。

- 平成26年8月21日～9月22日の間:「夏銀河2014」
- 平成26年12月25日～12月30日の間:「冬銀河2014」
- 平成27年2月19日～3月3日の間:「春銀河2014」



(5) 学生による支援

②宮古短期大学部JRCサークル(学生赤十字奉仕団)―設立:平成20年度―

- ・ 平成20年度の活動開始以来、宮古市社会福祉協議会との緊密な連携のもと、地域住民の要請に応えるよう奉仕活動を実施している。
- ・ 東日本大震災発生後は、被災者支援の活動を主として、側溝の海泥の清掃、個人宅の片付け、支援物資の仕分け、仮設住宅サロン運営の補助やシチューなどお振舞い、独居高齢者の孤立を防ぐ訪問活動や生活再建への協働など地域の復興に向けたボランティア活動に従事している。
- ・ 平成26年度は、赤十字精神のもと主に以下の支援活動に従事した。また、宮古市社会福祉協議会より震災復興支援活動に対し表彰（会長感謝状）を戴いた。

①宮古市「街なか復興市」など復興関係の地域イベントの運営補助、②日本赤十字社の献血補助活動、③日本赤十字社のふれあいフェスティバル参加、④日本赤十字社第1ブロック（北海道・東北地区）の青年赤十字奉仕団会議参加、⑤宮古駅前の花植、⑥社協祭り運営補助、⑦高齢者宅の引っ越し補助、⑧被災地研修の企画～実施

(写真リスト) ア 宮古街なか復興市

イ 日本赤十字社献血活動

ウ 赤十字フェスティバル

エ 宮古市社会福祉協議会表彰



(5) 学生による支援

③ はまぎく

《おでんせ宮古プロジェクト》

「はまぎく」は、東日本大震災津波の被災地である宮古市出身の学生が中心となり、同市の観光事業に新たな風を起こすことを目的として平成25年度に結成された。25年度は、市民へのアンケート調査等、活動実施のための基盤づくりを中心にいった。

平成26年度は、「市民のコミュニティ形成を促進し自立を手助けすること」、また、「観光客が宮古を訪れるきっかけづくり」を目的として活動を実施している。

活動内容としては、JR東日本盛岡支社の協力のもと、同社が実施するイベント「駅からハイキング」に企画段階から参画し、宮古市のコースを考案、提案した。同イベントの宮古コースにはガイドとして参加した。

また、宮古観光協会が主催しているイベントの補助を継続的に実施し、イベントの企画運営も行った。



(5) 学生による支援

④ しまもぐプロジェクト

《しまもぐプロジェクト》

「しまもぐプロジェクト」は、社会福祉学部の学生が中心となって結成されたプロジェクトチーム。

被災地支援を目的として計画されたこのプロジェクトは、学生が企業の協力を得ながらオリジナルのボールペンを開発し、自分たちで販売活動を行い、売り上げの一部を赤い羽根共同募金を通じて被災地への支援にあてるというものである。

本年5月末から本学売店で販売を開始し、現在も継続して販売が行われている。

さらに、被災地支援に賛同を頂ける企業や、県内で実施されるイベントを中心に、自ら営業活動を行い、販売先を展開していく予定としている。

今後は、ボールペンのほか、新たな商品の開発も検討する予定である。



(5) 学生による支援

⑤「被災地支援を行う学生ボランティア活動への支援事業」

平成25年度に実施された、教職員の給与減額によって生じた財源を用いて、被災地支援を行う学生ボランティア活動への支援事業を同年度から実施。

平成26年度に支援を行った学生の活動は以下のとおり。

1. いわてG I N G A - N E Tプロジェクト「夏銀河2014」参加

【概要】全国の学生ボランティアによる岩手県被災地での復興支援プロジェクトへの参加

【参加学生数】31名 【実施期間】平成26年8月12日～9月23日 【場所】岩手県内沿岸地域

2. 風土熟人R 気仙沼ツアー

【概要】東北の新たな観光事業「東北に100のツリーハウスをつくろう」の手伝い

【参加学生数】6名 【実施期間】平成26年8月23日～8月24日 【場所】気仙沼市

3. K I P U * L a b o 合宿 i n 大槌

【概要】大槌町の特別養護老人ホームなど2施設での化粧・ハンドマッサージ・ネイルボランティア

【参加学生数】6名 【実施期間】平成26年8月20日～8月21日 【場所】大槌町

4. ネクストプログラマー たろちゃんハウスまつり

【概要】田老秋祭りにおけるバルーンアート作りによる子どもの遊び場支援

【参加学生数】11名 【実施期間】平成26年9月21日 【場所】宮古市グリーンピア田老付近

5. カッキー's 健康子育てアロマイベント

【概要】山田町健康福祉課が主催する子育てサロンの運営支援

【参加学生数】16名 【実施期間】平成26年10月4日～10月5日 【場所】山田町保健センター

6. 看護学生会 第68回田老地区体育大会～withオリンピックデー・フェスタin田老～

【概要】田老地区の体育大会・JOC主催の「オリンピックデー・フェスタin田老」の開催支援

【参加学生数】7名 【実施期間】平成26年10月12日 【場所】宮古市田老第一中学校校庭

7. カッキー's 山田町地域診断

【概要】同町での復興支援活動のため、健康状態に関するアンケート調査、被災者の意識調査を実施

【参加学生数】21名 【実施期間】平成26年11月15日～11月16日 【場所】山田町

(5) 学生による支援

⑤「被災地支援を行う学生ボランティア活動への支援事業」

8.いわてGINGA-NETプロジェクト「冬銀河2014」参加

【概要】全国の学生ボランティアによる岩手県被災地での復興支援プロジェクトへの参加

【参加学生数】2名 【実施期間】平成26年12月24日～12月30日 【場所】岩手県内沿岸地域

9.復興girls&boys＊ 陸前高田での報告

【概要】高田松原を守る会に対しグループの販売活動 を報告し、支援金を届けるとともに、現状についてヒアリング。

【参加学生数】3名 【実施期間】平成27年1月16日 【場所】陸前高田市

10.うめえもん届け隊実行委員会 フィールドワーク（陸前高田・釜石の魅力発見・発信）

【概要】沿岸地域の魅力を発見、発信していく活動。商店を訪問し、商品開発、魅力発信の材料とする。

【参加学生数】4名 【実施期間】平成27年2月17日 【場所】陸前高田市、釜石市

11.いわてGINGA-NETプロジェクト「春銀河2014」参加

【概要】全国の学生ボランティアによる岩手県被災地での復興支援プロジェクトへの参加

【参加学生数】4名 【実施期間】平成27年2月18日～3月3日 【場所】釜石市、大槌町ほか

12.復興girls&boys＊ 第2回東日本大震災復興支援東北3県応援イベント

【概要】被災地企業の商品を販売することによる、被災地の状況や魅力をPRする活動

【参加学生数】4名 【実施期間】平成27年2月21日～2月22日 【場所】グリナード永山（東京都多摩市）

13.カッキー's 子ども支援子ども交流会 あそぼっ！ in 種差

【概要】久慈市、野田村の小学生を対象とした、子どもの心のケア、遊び場の提供イベントへの協力。

【参加学生数】9名 【実施期間】平成27年3月14日～3月15日 【場所】種差少年自然の家（青森県八戸市）

14.うめえもん届け隊実行委員会 フィールドワーク（陸前高田の魅力発見・発信）

【概要】沿岸地域の魅力を発見、発信していく活動。商店を訪問し、商品開発、魅力発信の材料とする。

【参加学生数】3名 【実施期間】平成27年3月17日 【場所】陸前高田市

15.カッキー's 看護職を目指す者の集い

【概要】沿岸被災地の高校生を対象とした、現場で働く看護職員の講演等、若者育成・進路相談イベントの開催。

【参加学生数】12名 【実施期間】平成27年3月21日 【場所】宮古短期大学部

(6) 地域との連携

① 平成26年度岩手県立大学研究成果発表会の開催

ア 趣旨

本学の学部やいわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター（i-MOS）及び地域政策研究センター（地政研）等の取り組みと研究成果を広く知っていただくため、「震災復興」などをテーマとし、9月19日(金)、20日(土)に「いわて県民情報交流センター（アイーナ）」で開催

イ 内容

◇講演発表 37講演

- ・i-MOS： ソフトウェア情報学部 教授 佐々木淳 他12講演
- ・地政研： 看護学部 講師 松川久美子 他14講演
- ・学部： 看護学部 教授 福島裕子 他11講演

◇パネル展示

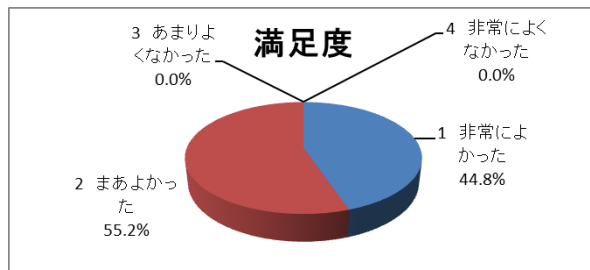
パネル展示 75課題

(i-MOS：24課題、地政研：38課題、学部：13課題)

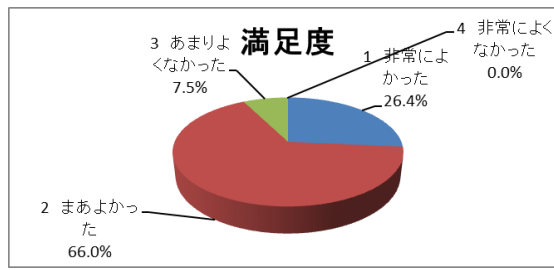
ウ 来場者数：233人

エ 来場者アンケート結果（抜粋）

◇講演発表



◇パネル展示



(6) 地域との連携

② 岩手県立大学公開講座・地区講座の実施

【公開講座】いわての魅力や強み、いわて県民が自信を深められる話題をテーマに、学内外の講師にそれぞれの専門領域からお話いただき、震災復興の加速化に向けた機運を盛り上げるべく平成26年度の公開講座・滝沢キャンパス講座を7講座開催

○テーマ：「発信！いわての力」

講 座	日 時	講 師	テーマ	受講者数
講座1	7/26	岩手県立大学 学長 中村慶久	イノベーションの原点	100名
講座2	8/30	盛岡短期大学部 教授 石橋敬太郎	国際交流から多文化共生の時代へ ー新たな社会の創造に向けてー	99名
講座3	8/30	高エネルギー加速器研究機構 講師 藤本順平 氏	宇宙の謎を解く ー国際リニアコライダー計画とはー	113名
講座4	9/6	山田町健康福祉課 保健師 尾無徹 氏	動き、つながり、創造する ー新たな力でいわてを元気にー	95名
講座5	9/6	社会福祉学部 教授 高橋聡	教育の王道に立ち返る、岩手教育「現代化」の展望	81名
講座6	9/27	ソフトウェア情報学部 准教授 新井義和	岩手らしい自動車運転支援システム ー緊急事態に備えて見えないものを見える化ー	80名
講座7	9/27	株式会社日立ソリューションズ東日本 代表取締役 取締役社長 八田直久 氏	いわての力×日立ソリューションズ東日本の力 ー滝沢市 I P U 第2イノベーションセンター入居で生まれる新たなカー	88名
計				656名

【地区講座】平成26年度の公開講座を被災地等で開催

講 座	日 時	講 師	テーマ	受講者数
滝沢地区講座	9/8	総合政策学部 准教授 新田義修	農業政策論から見た「農地中間管理機構」・「農林水産業・地域の活力創造プラン」の現状と課題、そして私たちがやるべきこと	51名
釜石地区講座	11/9	社会福祉学部 教授 小川晃子	見守りと地域づくりー岩手県立大学の取り組みー	24名
宮古地区講座	11/24	総合政策学部 准教授 新田義修	岩手県沿岸地域における水産加工流通業の競争力強化と雇用の拡大	21名
洋野地区講座	2/21	総合政策学部 准教授 山田佳奈	次世代に受け継がれる「食」 ー私たちは何を受け継ぎ、そして何を手渡すのかー	56名

(7) 他大学との連携

① 平成26年度「いわて学」,震災復興をテーマに開講【前期】

◇ 「いわて学」は、岩手県内5大学連携(いわて高等教育コンソーシアム)による共通授業として岩手県立大学が主務校となり平成22年度から開講している。

平成26年度前期は授業のテーマを『「三陸から知るいわて」～いわての復興を考える』として三陸地方の「自然」「歴史」「復興のすがた」などに焦点を当てた講義やグループワークを実施し、5月17日(土)から6月28日(土)までの15回開講(履修:106名)した。

回	日		テーマ・内容	講師	会場
1. 2	5/17 (土)	9:30~12:45	○グループワークで考える三陸 ○地誌から知るいわて	岩手県立大学 豊島正幸	71-ナ 803
3. 4	5/24 (土)	9:30~11:00	○世界遺産候補「橋野高炉」から知るいわて	岩手大学 小野寺英輝	71-ナ 803
		11:15~12:45	○産業・経済から知る三陸いわて	岩手経済研究所 谷藤邦基	
5. 6	5/31 (土)	9:30~12:15	○文学から知る三陸いわて	盛岡大学 塩谷昌弘	マリオス 188
		12:15~12:45	○現地講義に向けて	岩手県立大学 豊島正幸	
7. 8. 9	6/7 (土)	9:30~15:00 (集合時間等別途指示)	○博物館から知る三陸いわて (岩手県立博物館での現地講義)	岩手県立博物館 学芸員	岩手県立 博物館
10. 11 12. 13	6/14. 15 (土・日)	1泊2日	○現地で知る三陸いわて (釜石・大槌・山田での現地講義)	・旧釜石鉱山事務所 ・おらが大槌夢広場 (ガイド2名) ・福幸きらり商店街 (山崎会長) ・(株)川石水産 (川石社長)	釜石市 大槌町 山田町
14	6/28 (土)	9:30~11:00	○三陸復興に向けた県のプロジェクト構想	岩手県政策地域部 科学ILC推進室 科学技術担当課長 高橋浩進	71-ナ 803
15		11:15~12:45	○グループワーク(まとめ)	岩手県立大学 豊島正幸	



(7) 他大学との連携

② 平成26年度「いわて学」,平泉をテーマに開講【後期】

平成26年度後期は授業のテーマを『「平泉から知るいわて」～いわての復興を考える』として平泉を核とした「地域特性」「魅力」「復興」などに焦点を当てた講義やグループワークを実施し、10月11日(土)から11月29日(土)までの15回開講(履修:76名)した。

回		日	内 容	講師	会場
1.2	10/11 (土)	9:30~12:45	○授業概要説明 ○グループワークで考える平泉	岩手県立大学 豊島 正 幸	マリナ 188
3.4	10/18 (土)	9:30~12:45	○文学から知る平泉	盛岡大学 塩谷 昌 弘	マリナ 188
5・6	11/1 (土)	9:00~11:15	○現地講義 (志波城古代公園・盛岡市遺跡の学び館)	(現地講師)	盛岡市
		11:20~12:30	○平泉での現地講義に向けて	盛岡大学 熊谷 常 正	
7.8.9	11/8 (土)	9:00~16:00	○平泉現地講義	岩手県立大学 豊島 正 幸	平泉町
10.11	11/15 (土)	9:30~12:45	○平泉から知るいわての資源(漆)	(現地講師) 岩手県立大学 豊島 正 幸	二戸市
12	11/22 (土)	9:30~11:00	○世界遺産と三陸復興(1)	岩手県立博物館 赤沼 英 男	71-ナ 803
13		11:15~12:45	○世界遺産と三陸復興(2)	陸前高田市 観光物産協会 實吉 義 正	
14	11/29 (土)	9:30~11:00	○平泉の情報発信と地域振興	県南広域振興局 工藤 昭 雄	71-ナ 803
15		11:15~12:45	○グループワーク(まとめ)	岩手県立大学 豊島 正 幸	



(7) 他大学との連携

③ 岩手県地域防災ネットワーク協議会への参画

◇ 岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所等で組織する「岩手県地域防災ネットワーク協議会(事務局:岩手大学地域防災研究センター)」が実施した「防災・危機管理エキスパート養成講座」において、防災情報についての講義を実施した。

◆H26.11.26 防災・危機管理エキスパート養成講座「防災情報」
地域連携本部長 ソフトウェア情報学部教授 柴田 義孝

※協議会構成機関

国立大学法人岩手大学、公立大学法人岩手県立大学、学校法人岩手医科大学、
国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、盛岡地方気象台、陸上自衛隊岩手駐屯地、岩手県、
岩手県教育委員会、日本放送協会盛岡放送局、岩手日報社

④ 地域防災情報シンポジウムの開催

◇ 岩手県立大学地域連携本部、静岡県立大学ICTイノベーション研究センターとの共催により、シンポジウムを開催した。

【開催日】 H27.2.20

【会 場】 メイン会場(アイーナキャンパス)、サブ会場(高知工科大学、関西大学)

【概 要】 岩手県立大学をメイン会場に高知及び大阪サブ会場をJGN-Xで相互接続して、東日本大震災を教訓とした地域防災の取組や、今後想定される南海トラフ巨大地震などの大規模災害においても頑強で有効活用できる情報通信技術について、最新の技術動向や活用事例を紹介。

【本学からの事例紹介】 地域連携本部長 ソフトウェア情報学部教授 柴田 義孝

「東日本大震災を教訓とした災害に強いネバー・ダイ・ネットワーク

3 危機管理の対応

(1) 滝沢キャンパスの状況

全学的な防災訓練の実施

10月16日に全ての学生、教職員、大学関係者を対象とした防災訓練を実施

訓練は震度6強の大規模地震の発生により屋外避難が必要な状況の想定の下、実施し、学生、教職員併せて1,495名が参加した。

緊急放送、避難、避難誘導、負傷者救護などの昨年度の訓練項目に新たに重要物品の搬出訓練と屋内消火栓の操作訓練を追加して実施した。

なお、平成26年度からはインターネットを利用した安否確認システムが稼動しており、それらの報告訓練を併せて実施した(報告率:学生36%、教職員70%)

※ 安否確認システムによる報告訓練を年4回実施

学内の放射線量率の管理

9月に学内主要地点(滝沢29箇所、宮古9箇所)における空間放射線量率を計測したが、文部科学省通知により除染等の速やかな対策をとることが望ましいとされる「 $1\mu\text{Sv/h}$ 以上」に該当する地点はなかった。

また、平成24年3月から岩手県と連携し本学敷地内にモニタリングポストを設置し、全国の観測網とリンクして、24時間、365日の観測体制がとられている。

非常用物資貯蓄について

学内に防災倉庫を設置し、災害への備えとして災害対応備品・非常食等(救助工具、多機能ラジオ、トランシーバー、アルファ米、非常用保存水等)を配備している。

節電の取組

平成26年夏期は数値目標は設けず、昨年までに定着している節電の取組を基本とし、熱中症予防の観点等から無理のない範囲内で取組を行った。その結果、夏季3ヶ月における実績は、平成25年夏季に比べ、ピーク時電力は1.6%の減、使用電力量は3.0%の減となった。

危機管理マニュアルの整備

危機管理対応指針(平成18年制定)の下、様々な危機に迅速、適切に対応できるよう以下のとおりマニュアルを整備している。

- ・風水害・火山災害・大規模地震・火災・暴力
- ・NBCR災害 ほか8事象に係るマニュアル

その他

- ・滝沢村(当時)との「大規模停電時等における臨時避難所としての使用に関する協定」を締結。(H24.3.27)
- ・岩手県と災害発生時のボランティア等への情報提供、一時滞在等の役割を担う広域防災拠点施設の利用に関する協定を締結。(H27.3.31)

3 危機管理の対応

(2) 宮古キャンパスの状況

1 マニュアル作成状況等について

- (1) 宮古短期大学部危機対策本部設置要領
平成22年7月1日制定
- (2) 地震・津波対策マニュアル
平成25年1月30日制定
- (3) 風水害対応マニュアル
平成26年8月6日制定
- (4) NBCR災害対応マニュアル
平成26年8月6日制定
- (5) 暴力対応マニュアル
平成26年8月6日制定

ファイルにまとめて、全教職員に配布・周知

2 非常用物品等の購入・整備等について

非常用物品の備蓄(H26年度整備分)

- 栄養食品等食料: 1,500食
- 飲料水(500ml): 1,600本

※ 備蓄全体(食料:4,500食、飲料水:4,800本)の1/3を毎年更新

3 各種対策等の実施状況等について

- 26.4 新入生への学生生活等ガイダンスでの説明
(地震・津波対策)
- 26.4 関係団体連絡先一覧作成
- 26.4 学生の住居一覧作成
- 26.4 各教室へ「災害時の対応」、「避難経路図」の表示
- 26.5 衛星インターネット及び衛星携帯電話使用説明会
(事務局)
- 26.5 災害時安否確認システムを使用した確認訓練(1回目)
- 26.5 ゼミ担当教員から各ゼミ生の安否確認訓練(1回目)
- 26.6 「防災講義」実施
講師: 伊藤英之 県大総合政策学部教授
- 26.10 災害時安否確認システムを使用した確認訓練(2回目)
- 26.10 ゼミ担当教員から各ゼミ生の安否確認訓練(2回目)
- 26.11 自衛消防訓練(総合消防訓練と併せて実施)
- 26.12 学生寮自衛消防訓練

4 印刷物での配付等について

- 26.4 「学生便覧」に地震・津波マニュアルと避難場所を掲載